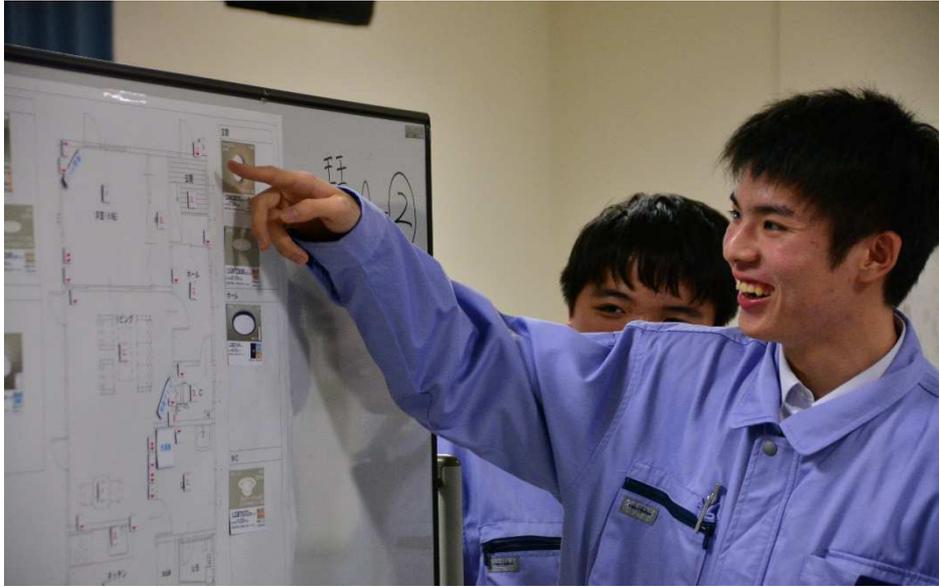


技術系教育機関との連携『電 zania』

支 部	札幌支部
事 業 名	技術系教育機関との連携『電 zania』
報 告 書	水谷吉男（企画委員長）
日 時	平成28年11月5日（土）
開 催 場 所	札幌琴似工業高等学校、札幌工業高等学校
参 加 人 数	高校生2校合計:49名 青年部員:30名

事 業 目 的	<p>これまで先生方や生徒に向けた業界PRは行ってきたが、説明を聞くという一方通行ではなく、工業高校生が電気業界へ飛び込むことへのブレーキになる‘無知による不安’をいかに払拭するかを念頭に、「聞き」「見て」「触れる」機会を作り出し、打合せ～商談～図面作成～実施工に至るまでの一連の業務行程を「楽しみながら」普段の我々の通常業務を体験してもらう。</p> <p>実務に則した内容にすることで伝える側にも様々な気づきをもたらす。</p>
事 業 報 告	<p>施工ブース・プランニングブース・コミュニケーションブースの3つに班分けし、各ブースを体験してもらった。</p> <p>施工ブースでは、照明器具を天井に取り付けたり、ケーブルの切断や結線、延長コード・LANケーブルの作成などを体験。</p> <p>プランニングブースでは、一人暮らしを想定した部屋のプランニングを体験。照明器具の選定や配置、コンセントなどの配置を考え、出来上がったプランを単価表を元に積算し、最後に参加者の前で発表した。</p> <p>コミュニケーションブースでは、面接マナークイズ・ビジネスマナークイズを開催。面接の重要なポイントや、ビジネスマナーで欠かせない名刺交換、電話応対など実践を交えてクイズ形式で出題。最後は実際に名刺交換や面接を体験してもらった。</p> <p>当初の狙いであった、‘楽しさ’と‘新たな発見’が詰まった事業で、委員会の垣根を越えた協力体制と個々の姿勢と遂行力の高さを改めて皆が実感できた事業でした。‘連携’という名の付くとおり、相手先のある外的事業であったが、青年部の一体感や、作り上げる楽しみを感じる機会であったこと、そのことが青年部の醍醐味であることを再確認できた事が何よりの成果であった事をここに記したいと思います。</p>
添 付 資 料	写真 6 枚



No. _____



No. _____



No. _____
